

第74回大野市介護保険運営協議会概要

令和4年11月14日（金） 18:55～19:25

結とぴあ3階 302号室

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査について【資料1】

事務局別添資料に基づき説明

【意見等】 ○前回の調査では回収率は？

→約75%

○空き家になった場合どうするのかという設問を入れた理由は？

→空き家の担当課より、市でどのくらいの空き家が発生するかを把握したいとのことで設問に入れた。

4. 報告事項

(1) 介護事業所の指定更新等について【資料2】

事務局別添資料に基づき説明

【意見等】 なし

5. その他

【意見等】 ○認知症の介護について、認知症は本人だけではなく、家族も負担が多い。虐待にも繋がると思うが、家族のケアとしての市の施策は。

→認知症の方の家族の介護負担は大きいものになっている。市は、認知症に限っていないが、家族介護教室を開催し、介護者同志で話ができる機会を設けている。認知症の方で介護サービスを利用している方はケアマネジャーがいるので、ケアマネジャーに介護者の負担をみるアンケートをお願いして、強いストレスがたまっていることに気づいたら早めに支援したり、市へ相談していただく等対応をしている。また、認知症カフェを開催し、家族同士の交流を促したりもしている。ただ、そこまでたどりつかない家族もいて、地域の方に連絡いただいて初めて気がつくようなケースもある。虐待としてあがってきて気がつくケースもある。

○認知症は本人のせいではない。認知症は病気であるという認識でいいのか。市では、認知症の大変さを広報しているのか。（介護者が）鬱になったり、体を休めたり、会社を休めたりとか、皆が認知症を受けられるような対策をしているのか。家族は大変だと思う。皆が協力していかなくてはならないと思う。

→地域包括支援センターでは、認知症の方のご理解をいただくため、毎

年講演会やイベントをしているが、なかなか、毎日認知症の方と接している方へのケアには至らないのが現状。市は、認知症に特化して相談が受けられる専門員を1人雇用している。認知症状があっても、医療につながっていないかったり、受診しているけれど薬が合わなかったりする方もいる。そのような方を中心に、専門の相談員が直接訪問したり、家族と一緒に医療機関に付き添ったりしている。介護者が辛い時に、相談することで、虐待を防止するということもある。ちょっと辛そうだなとか、見かけることがあったら地域包括支援センターにご連絡いただきたい。

○認知症は色々な病気が入っているものがある。症状を抑える薬はあるので、専門医に相談することが大事。家族の介護負担を無くすために始まった介護保険制度だ。家族だけで悩まずに、皆で支える、他職種で認知症の方を支えることが包括ケアである。

6. 閉会あいさつ